測定値が大幅に減少

河川水質検査結果

家庭排水汚染めだつ

◈　全事業所が操業停止の間の河川の水質を検査しようと、さる一月三日、京都府向陽保健所の協力を得て、乙訓二市一町の公害担当職員が、河川水質検査を実施しましたが、このほど、その調査結果がまとまりました。

◈　調査結果をみてみますと、市内を流れる河川は、事業所排水と家庭排水によるものとの区別がおおよそつかまえられ、また平常時よりも水質がきれいであることをつかみました。◈

（検査するため採水する公害職員）

水質検査は、午前九時から正午まで、市内を流れる河川十一地点で採水、公害対策基本法で定められている生活環境項目、BOD（生物化学的酸素要求量）、COD（化学的酸素要求量）、PH（水素イオン）、SS（浮遊物質）などの十四項目にわたり検査しました。

市内で、水質汚濁防止法や府公害防止条例で指定されている水質汚濁の特定施設は三十七か所（乙訓二市一町では九十九か所）の事業所があります。

これらの操業停止の際の排水のない状態での水質検査資料がないため、検査結果が注目されていたものです。

今回の調査では、好天つづきのため、渇水状態で水が流れていないところもありましたが、上流や周辺に工場などのない河川ほど、汚濁度の測定値が大幅に減少しました。また、河川の中でも、家庭排水と事業所排水による河川の区別が、おおよそつかめました。

調査河川のうち、洛西用排水路幹線、石田川の両河川は、家庭排水による汚濁が高まり、また吉田川、少々川、苗城川、和井川の河川は、事業所と家庭排水により複合的に汚染されているという、市の特徴が現われました。

また、調査結果から、BOD値が平常時よりも上回っていた河川は二河川ありましたが、これは渇水時による水の滞留のため、高い数値を示したものです。

総体的にみてみますと、市内の河川は、住宅密集地を通る河川の汚染度は、家庭排水を受けるため、平常時と測定値が大差ない結果となりましたが、工場排水の流れこむ河川は、BOD値が下回った結果となりました。

公害課では、調査結果から、「調査結果を基礎資料として、河川監視を強めていきたい。」といっています。

調査河川の結果（BOD値で）は、つぎのとおり。

上流からの工場排水の多い吉田川が一二・〇九ppmと十二月の定期検査時の二三・九二ppmより下回り、洛西用水路西幹線は五二・八八ppm（同定期検査四〇・四八ppm）、山科川は一〇八・四五ppm（同定期検査一九・五六ppm）と汚染度が高いがこれは水が滞留していたため。また、石田川で四七・四一ppm（同定期検査三三・七六ppm）と高く、これは市の住宅や商店街を流れ、家庭排水の汚染がめだっていることを示し、